

携帯電話でETECの演習問題を配信開始 組込み技術者の裾野拡大により業界の活性化を

アドバンスデザインテクノロジー株式会社

11月9日から組込みソフトウェア技術者試験クラス2がスタートし、組込み技術者試験制度(ETEC)もいよいよ本格始動となった。こうした中、LSI開発ビジネスを展開するアドバンスデザインテクノロジー株式会社(本社・東京都府中市、高橋純樹代表取締役)では、ETECの試験対策問題を携帯で配信する「速攻!技術の花道」を12月中旬からスタートする。演習問題配信にとどまらず、組込み関連の初の携帯コンテンツとして、技術者の拡大・育成と業界の活性化を目指す。



須田 仁氏

組込み技術者の拡大と社会的認知度向上を

アドバンスデザインテクノロジーが12月中旬から開始する携帯配信サービスは、自習ドリルのスタイルを携帯の中に構築することで、ETECの試験の準備環境を提供するものだ。月々わずかの利用料で演習問題に取り組めるだけでなく、求人を含めた多彩な業界関連情報が入手できる。「スタートしたばかりのETECのPRという意味でもお役に立てると思いますし、それにとどまらず、将来の私たちの仲間になる人材がこの中で育っていくことができるような組込み業界のポータルサイトを目指すことにより、業界貢献に繋がることを期待しています」と、同社の専務取締役である須田仁氏は話す。

同社は、マイコン、モバイル、通信分野向けのLSI開発を主力業務とする技術会社だ。携帯コンテンツを手がけてきたわけでもない同社を今回の携帯配信事業に駆り立てたのは、同社がかねてから抱えてきた技術者育成への熱い思いだと言える。

「当社では、ビジネスの傍ら、アカデミー事業を立ち上げて半導体設計技術者の育成にも積極的に取り組んできました。昨年JASAに入会しましたが、組込みソフトウェアも、私たちが携わるハードウェアがなければ動きません。そこで、ETECのプレ試験をみんなで受けながら、“ETECに関しても何かできないか”と検討を始めました。座学や集合教育だと場所や費用の問題も出てくるが、世の中にこれだけ浸透したネットワークをうまく利用できれば、ということが出てきたのが携帯電話による配信というアイデアだったのです」(須田氏)。

事業本部長の植田賢二氏も、「技術会社としては異色の事業と言えますが、ETEC試験があるから関連コンテンツを配信するというのではなく、あくまで人材育成への取組みの一環として当社でできることをやろうという発想が基本です。このサービスを通じて数多くの人が集まり、必要な技術や人材が行き交う場として成長することを期待しています」と抱負を語っている。

いつでもどこでも、組込み業界の勉強を

この「速攻!技術の花道」は、次のようなメニュー構成で進められる予定だ(画面などは開発中のサンプル)。

- (1) 演習問題配信
- (2) 用語検索
- (3) 著名人コラム
- (4) 業界ニュース
- (5) 求人情報
- (6) 成績閲覧



「空き時間に気軽に見られ、かつ飽きさせないような使い勝手に注力しています。電車での通勤時間などを有効に使ってスキルアップを図ってもらいたい」と、コンテンツ開発に携わる同社主任の伊澤大介氏は話す。「求人は、売り手市場と言われる一方で優秀な技術者不足という矛盾を抱えているのが現状です。こうした中で必要とされているのは、業務に追われ、なかなかスキルを上げられない、上げるきっかけがつかめない若手をはじめとする技術者全体の底上げではないでしょうか。このコンテンツをぜひ意識向上のきっかけにしたい」。



植田 賢二氏



伊澤 大介氏

メインとなる演習問題のページでは、ラジオボタンで解答を選択すると、正解・不正解が表示され、それぞれ解説が付けられて確実な習得をサポートしてくれる仕組みだ。過去の正誤答率はジャンルごとにチェックでき、弱点の把握もできる。ETECを想定した模擬試験では、成績の履歴やランキングが表示されることで競争心やモチベーションを高めるよう工夫されている。今後は試験の体験談なども掲載しながら、最終的には試験の申し込みまでが行えるサイトを目指す。

また、「用語集は、現時点ではETEC受験に必要な専門用

語にフォーカスしているが、今後はエレクトロニクス・IT業界全般に対象を広げていきたい。求人情報については、学生はもちろん、業界に職を求めてくる幅広い年齢層の人たちがスキルや能力に応じた職に出会えるよう、質の高い情報提供を行いながら裾野の拡大を目指します」(植田氏)という。

著名人コラムやニュースなどについては、コンテンツ制作や情報配信のプロではない同社単独での展開には限界もあろう。現在、業界の有識者に協力を仰ぎながら進めているが、業界全体でいいものを作っていけるよう、業界関係者の力添えが期待されるところだ。

「携帯でできることの限界もあるでしょう。そのあたりは、携帯で簡易的な試験をやり、実試験に近い形での模擬試験はPCで行うといった棲み分けも考えています。また、並行して座学もやはり必要であり、今回の携帯配信で裾野を広げると同時に、育ってきた人たちにさらに上のステージを当社で用意してサポートしていくことも検討しています」(須田氏)と、アカデミー事業の拡大も視野に入れながら、同社ならではの積極的な人材づくりを推進していく。

なお、「速攻!技術の花道」は現在NTTドコモの公式サイトとしてスタートしたが、auやソフトバンクなど携帯キャリアにも順次対応させていく計画だ。

即戦力となる技術者を育てるアカデミー事業

LSI設計・評価のプロ集団であるアドバンスデザインテクノロジーが、技術者不足対策として行っているのがエンジニアの育成事業だ。ADTアカデミーと名付けられたこの事業は、必要となる業界基礎知識をはじめ、回路設計、記述言語、論理合成、レイアウトから、最も敷居の高いと言われる評価業務までの一貫した教育体制を備えたもの。現在、(1)即戦力養成コース(実働期間120日)、(2)フロントエンド技術者養成コース(55日)、(3)即戦力養成コース(120日)、(4)基礎技術者養成コース(40日)の4コースを設置している。また、各コースの組み合わせや追加にも柔軟に対応している。いずれのコースも、業務で実際に使用されるツールを用いて、より実践に近い形での技術習得を目指す。また、ETEC関連コースの新設も検討中だ。

詳細は、同社のURL : <http://www.adte.co.jp/>